

京都市東山区 倉田 伴子（76歳）

この体験談は37年くらい前、息子が小学4年生くらいの時に、おばあちゃん（私の義母）に頼んで書いてもらったものです。今は亡き義母は当時80歳くらいでした。

昭和のはじめ、支那事変がおこり、日本兵が満州へ満州へとおくられました。そして今の中国とたたかい、4年がたちました。

昭和16年の12月8日に英米とたたかうことになりました。軍人として出て行く人も、家を守る私たちも、いっしょうけんめいでした。時にはてつびんや火ばちなど、きふしました。いたいたい軍人さんを見て、私たちの為にたたかってくださった方と思うと目がしらをおさえることでした。

そして20年のはじめ頃には、アメリカ兵が来ました。B29というひこうきにのって来ました。広島や長崎などに、ばくだんをおとしました。広島はやけ野が原となり、人も車も家もがやけただけでした。頭の毛に火がつき、又は着物にも火がついて、たおれて死んで居ました。まっ黒になって、あちらにもこちらにも人がたおれてしんで居ました。実にひさんなことでした。

8月15日、天のうへいか様が白はたを出されて、たたかいはおわりました。それから後も物がふそくで、なんぎしました。